第4号様式(その1)

# 政務活動費実績報告書

## 研究研修費・調査旅費

実績報告書 No. 4

| | |
|---|---|
| 項 目 | 研究研修費 ・ 調査旅費 (該当する項目を○で囲む) |
| 期 間 | H29 年 11 月 8 日 から 11 月 10 日まで |
| 研究研修名・場所等 | 【うるま市行政調査(うるま市役所)11月8日】 |
| | 第79回全国都市問題会議(沖縄県立武道館)11月9日～10日 |
| | |
| 参加者 | 5人<br>(氏名等) 森和実、若杉たかし、武田なおき、成瀬のりやす、松原たかし |

研究研修・調査の項目

テーマ「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」

1日目(基調講演・主報告・一般報告)

基調講演「多様性のある江戸時代の都市」 山本博文東京大学史料編纂所教授

主報告「ひと つなぐ まち ー新しい風をつかむまちづくりー」 城間幹子那覇市長

一般報告 人口減少社会の実像と都市自治体の役割 山下祐介首都大学准教授

自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり 蝦名大也釧路市長

新たなステージに入った沖縄観光 下地芳郎琉球大学教授

2日目(パネルディスカッション)コーディネイター 後藤春彦早稲田大学教授

パネラー 能作千春・藤田としこ・平田大一・山岸正裕・染谷絹代

| | 摘 要 | 金 額 | 備 考 |
|---|---|---|---|
| 経費内訳 | 会場使用料 | 0 円 | |
| | 講 師 料 | 0 円 | |
| | 交通費(公共交通機関) | 152,500 円 | 30,500×5人分 |
| | 交通費(タクシー) | 0 円 | |
| | 交通費(レンタカー等) | 0 円 | |
| | 道路通行料等 | 1,610 円 | 11月10日分 |
| | 宿 泊 費 | 90,000 円 | 9,000×5人分×2日 |
| | 会費(出席者負担金) | 50,000 円 | 10,000×5人分 |
| | 駐車場代 | 5,500 円 | |
| | 計 | 299,610 円 | |

《内容及び今後の活用計画は別紙記載》

メインテーマ
「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」
— 新しい風をつかむまちづくり —

成果
1日目（11月9日）
○基調講演「多様性のある江戸時代の都市」　東京大学史料編纂所教授　山本博文氏

江戸時代は封建制で地方自治であったから、必然的に多様性になっていたのであり、現代のような中央集権国家ではなかなか地方分権は進まない。講演では「参勤交代が街道や宿場町を発展させた」と実例をあげて話をされた。大変興味深い内容であったが、我々は現代における参勤交代は何であるかを考える必要性があると思われた。そこには「地域間交流」や「こだわりをもった街づくり」というテーマがみえてくるのではないかと思った。

○主報告「ひと　つなぐ　まち」—新しい風をつかむまちづくり—　那覇市長　城間幹子氏
城間市長は、沖縄は本土復帰45年になるが、那覇市は今や東アジアの商業貿易拠点となっていて、県庁所在地の人口密度としては東京・大阪・横浜に次いで第4位になっている。また、5年ごとに開催される「世界のウチナーンチュ大会」にみるように世界とのつながりがある土地柄であり、今後は沖縄の伝統的文化を大切にしながらも、ますます都市基盤整備に力を入れ、住みやすくて、訪れやすい街づくりに努め、万国津梁のまち『那覇市』を目指していきたい、と結ばれた。また、那覇市のキャッチフレーズは『平和・こども・未来「ひと　つなぐ　まち」』を掲げているそうだが、なるほど沖縄らしいなと思いつつ、米軍基地を多く抱える地域の住民の胸の内を思い浮かべると共に、平和な国際社会を希求することを決して諦めてはいけないということを再確認できた。
※万国津梁（世界の架け橋の意味　琉球王朝時代の万国津梁の鐘文より）

○一般報告
①人口減少社会の実像と都市自治体の役割
— 人口とインフラの適正な持続的配置はいかに可能か？ —
首都大学東京大学院人文科学研究科准教授　山下祐介氏
総論的な講演であり、目新しい指摘はなかったが、人口減社会だからこそ今までの発想で街づくりを継続していくことは無理があることはよくわかった。しかし、ではどのように街づくりを始めとした持続可能な都市開発を進めたらよいのかという具体案は示されなかったのが少々残念であった。

②自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり　釧路市長　蝦名大也氏
厳しい環境を街づくりにいかした実践を行った先駆的存在の市長であることは知っていたが、実際に講演を聞いてみて、なるほどと実感できた。政治家の秘書から市議・県議を経て市長に就任したという経歴だけでは見えてこない実行力と決断力によって財政再建の道

筋をつけただけでなく、市民の創意工夫を重んじるという施策「産消協働」で釧路市を道央以外で唯一外から稼ぐ街にしたのだそうである。これは郷土（釧路）愛と釧路の強みをしっかり結びつけた結果であり、大いに参考になる実践である。「尾張旭は何もない」から脱却して、「これもできるあれもできる街」に変貌するには、まだまだ協働が不足していることは明白である。

③新たなステージに入った沖縄観光
— 複合的な魅力を有するハイブリットリゾートへ —

琉球大学観光産業科学部長・教授　下地芳郎 氏

観光の定義が、日本の場合はレジャーと同義語のように使われている。しかし2015年の国際旅行客の目的は半数がレジャーだが、半数はレジャー以外である。したがって観光＝レジャーという発想から脱却して、多様なニーズに対応することが必要であるという主張には大いに同感できた。「尾張旭に観光資源はあるの？」ではなく、新たなビジネスチャンスをどう構築していくかを再度考え直す必要があると痛感した。

また、実際に沖縄を訪れる人は１日約８万人だそうだが、ほぼ毎日尾張旭市民が沖縄に行っていることになると思うと、すごい数字だと思った。しかし更なるインフラ整備を含めた都市環境整備が必要であり、沖縄はまだまだ発展途上であることもよくわかった。それだからこそ魅力的な地域であることに変わりはなく、今後は尾張旭市も沖縄と積極的に地域間交流に取り組んでいきたい。

２日目（11月10日）

○パネルディスカッション

コーディネーター　早稲田大学理工学術院教授　後藤春彦氏

パネラー「産業観光による地方創生」　株式会社能作取締役産業観光部長　能作千春氏

「人と人がつながり、共感で響き合う」—まちの魅力と新たな地域価値創造—

まちひと感動のデザイン研究所代表　藤田とし子氏

感性・文化産業と沖縄感動産業戦略構築への道「感動立県おきなわ！を目指して」

沖縄文化芸術振興アドバイザー　平田大一氏

「ふるさとルネッサンス」—　16年の軌跡—　勝山市長　山岸正裕氏

「人を育て・人が育つまちづくり」—　協働・連携の中で　—

島田市長　染谷絹代氏

一番インパクトがあったのは「産業観光」であった。きっと参加者の多くがそう思ったであろう。富山県高岡市は昔から鋳物工業が盛んな地域であった。ある時、親子連の工場見学者が工場で働く職人を見て「勉強しないとこんな仕事になるよ」と言われ愕然とされたそうである。そこで社長の能作克治氏は「職人の地位を高め子どもたちに誇りに思ってもらえる職業にしたい」と決意をされ、仕事の内容を広く見てもらうことが大事だと考えられたそうである。地域、伝統の素晴らしさを伝えることが伝統産業の復活、地域の創生につながると思い、子どもたちを優先に工場見学を続けてきたと言われる。また高岡市では子どもたちに

伝統工芸の素晴らしさを伝える授業「ものづくり・デザイン科」が始まり、もう12年になるそうである。まさしく「観光産業立市　高岡」であり、高岡の強みを産・学・公で支えているのである。ここも大いに尾張旭は学ぶべきであると痛感した。

成果の活用計画

○基調講演　○主報告　○一般報告　○パネルディスカッションのどれにも共通したキーワードがあったように思える。それは人口減少時代を生き抜くには「発想の転換」が必要であり「地域の強みの再構築」ができるかどうかにかかっていると言っても過言ではない。要するに「尾張旭には何もない」発想からの脱却であり「尾張旭にはこれがある」発想への転換が必要だということである。

そこで以下具体例をあげて提案する

具体例①　地域間交流

「日本の春は名護市から」をキャッチフレーズに1月末に日本一早い桜祭りを開催している名護市と交流をする。その後、三春町や弘前市などとも桜祭りの交流を広げ「日本四大桜祭り」などと銘打って、物産展や人的交流を行う。

具体例②　毛受勝助家照杯スポーツ大会

平成29年12月23・24日の「第1回毛受勝助家照杯U11ジュニアサッカー大会」を尾張旭サッカー協会が中心となって開催されたようだが、柴田勝家の本拠地福井市からも参加をしてもらい県内外から計16チームが参加されたようである。

今後は市体育協会に呼びかけて他競技においても開催できるよう条件整備を行う。

具体例③　高瀬五助杯チャリティーゴルフ大会

平成30年3月30日に第3回高瀬五助杯チャリティーゴルフ大会が尾張旭ライオンズクラブ主催で開催される。今後は市民大会を「高瀬五助杯チャリティーゴルフ大会」と名称を変更することを提案し、高瀬五助氏の功績（森林公園設立）を語り継いでいかなくてはならないと考える。

# 行程表

11月8日　(水)うるま市　視察

尾張旭　—　中部国際空港　—　那覇空港　—　行政視察先

5:30　自家用車　7:35　(JTA043便)　10:00　レンタカー

うるま市役所　—　ホテルサン沖縄

13:15　14:45　レンタカー　17:00

11月9日　(木)全国都市問題会議

ホテルサン沖縄　—　開会　那覇市　沖縄県立武道館　(終日)　—

8:45　9:30　17:00

ホテルサン沖縄(泊)

17:30

11月10日　(金)

ホテルサン沖縄　—　那覇市　沖縄県立武道館　—　視察(那覇市内公共施設)

8:45　9:30　12:00　13:00　17:15

那覇空港　—　中部国際空港　—　尾張旭

19:10　(JTA046便)　21:10　自家用車　23:00

(発行部署控え)　　TJ-56827

# 領　収　書　(控)

№A 049551

フロンティア旭　様

| 金額 | | ¥ | 1 | 5 | 2 | 5 | 0 | 0 | 円 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

ただし　航空券代として

上記の金額正に領収しました

平成 29 年 12 月 13 日

| 種別 | |
|---|---|
| | 現金 |
| ✓ | 振込 |
| | カード |
| | |

名鉄観光バス株式会社

名古屋市熱田区神宮三丁目6番34号
名鉄神宮前駅西ビル8階
発行部署　春日井支店
(0568) 83-7111

| 所属長印 | 担当者印 |
|---|---|
| ● | ● |

◎ 所属長は定期的に審査すること

当時の会計責任者 武田なおき氏が
領収書原本を紛失した為 本書を提出いたします

第１号様式

# 支　払　証　明　書

| | |
|---|---|
| 支払先 | 住所　尾張旭市白鳳町２－２６ |
| | 氏名　森　和実 |
| 支払年月日 | 29年　11月　10日 |

| | |
|---|---|
| 金　額 | １，６１０円 |

（内容）　道路通行料　1.610円　（セントレア東～引山）

ETC 利用のため

上記金額の支払に際しては、領収書を徴することが出来ないので、その支払いしたことを証明します。

29年　11月　10日

会派名　フロンティア旭

代表者名　森 和実

（無会派議員は議員名）

（お客様片）

№A 049552

# 領　収　書

フロンティア旭　様

| 金額 | | | ¥ | 9 | 0 | ,0 | 0 | 0 | 円 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

ただし　宿泊代として

| 種別 | |
|---|---|
| | 現金 |
| ✓ | 振込 |
| | カード |
| | |

上記の金額正に領収しました

平成 29 年 12 月 13 日

収入印紙

日本政府

[redacted]

名鉄観光[redacted]株式会社

名古屋市[redacted]目6番34号
名鉄神宮前駅西ビル8階
発行部署　春日井支店
(0568) 83-7111

担当者印

社印・担当者印のないもの、及び、複写記入でないものは無効とします

後払いしました。(11月8日9日の宿泊代)

---

中部国際空港駐車場
0569－38－7830

領収証

精算機 #25　　P 精算No. 000042
発券機 #03　　発券No. 069835
入庫時刻 2017年11月 8日（水） 6:25
精算時刻 2017年11月10日（金） 21:45
駐車時間　　2日 15:20
駐車料金　　料金　4,500円
予約料(W)　　1,000円

==========
合　計　5,500円
お預り　10,000円
お　釣　4,500円
上記正に領収致しました。
==========

当時の会計責任者 武田なのゑが
領収書の原本を紛失した為
本書を提出いたします

# 会議参加費領収書

武田なおき 様

金　10，000　円

但、「第79回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成29年11月9日

第79回全国都市問題会議実行委員会

会　長　　城　間　幹　子 [redacted]

---

# 会議参加費領収書

成瀬のりやす 様

金　10，000　円

但、「第79回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成29年11月9日

第79回全国都市問題会議実行委員会

会　長　　城　間　幹　子 [redacted]

# 会議参加費領収書

松原たかし 様

金　１０，０００　円

但、「第79回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成29年11月9日

第79回全国都市問題会議実行委員会

会　長　　城　間　幹　子 [redacted]

# 会議参加費領収書

若杉 たかし 様

金　１０，０００　円

但、「第79回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成29年11月9日

第79回全国都市問題会議実行委員会

会　長　　城　間　幹　子 [redacted]

# 会議参加費領収書

森知実　様

金　10，000　円

但、「第79回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成29年11月9日

第79回全国都市問題会議実行委員会

会　長　城　間　幹　子　[redacted]

第４号様式（その１）

# 政務活動費実績報告書

研究研修費・調査旅費

実績報告書　No. 5

| | |
|---|---|
| 項　目 | 研究研修費・調査旅費（該当する項目を○で囲む） |
| 期　間 | 平成 30 年 1 月 18 日から 1 月 19 日まで |
| 研究研修名・場所等 | 大阪府泉佐野市役所、大阪府守口市立さつき学園 |
| 参加者 | 9 人<br>（氏名等）森和実、にわなおこ、若杉たかし、武田なおき、さかえ章演、秋田進<br>成瀬のりやす、松原たかし、まつだまさる |

研究研修・調査の項目

(1)泉佐野市　本市と特産品相互取組協定を締結したため、協定内容にも含まれる、観光ボランティアと地産地消活動を調査し、協定の質をよりブラッシュアップすることはもちろん、先進的かつ有益な事例を本市にも反映させるため調査した。

(2)守口市　人口減少による小中学校の統廃合を数多く手掛けている守口市の学校事業を見ることで、今後本市にも起こり得るであろう問題の解決・解消の手掛かりを調査・研究した。本市の教育行政に有益に反映させたい。

| 経費内訳 適用 | 金額 | 備考 |
|---|---|---|
| 会場使用料 | 円 | |
| 講師料 | 円 | |
| 交通費（公共交通機関） | 143,100 円 | 別紙のとおり |
| 交通費（タクシー） | 円 | |
| 交通費（レンタカー等） | 円 | |
| 道路通行料等 | 円 | |
| 宿泊費 | 104,004 円 | 名鉄観光バス（株） |
| 会費（出席者負担金） | 9000 円 | 泉佐野市 |
| | 円 | |
| | 256,104 円 | |

守口市議会 受付印 30.2.16 第401号

≪内容及び今後の活用計画は裏面記載≫

第４号様式（その１）

内　容

(1)泉佐野市　「観光ボランティアについて」「地産地消活動について」

泉佐野観光ボランティアについて、設立の目的・経緯・体制・活動状況等の説明を受けた。利用者に対しては観光ホスピタリティの提供、市民に対しては、郷土愛の醸成を推進している。

地産地消活動については、学校給食における現状の説明を受けた。港もあり、漁業協同組合もある地域だが、安定した供給量が確保できず、今は、JAを中心に取り組んでいるとのこと。泉佐野から見る、「地産」は南泉州で採れたものという定義も理解できた。

連携・提携した都市の名産品の販売も含む、泉佐野市の駅前アンテナショップの視察では、中国語・英語のポップや中国語・英語でコミュニケーションが取れるスタッフを配置するなど、随所に関西国際空港のお膝元と意識させるものが目に付いた。

(2)守口市　「小中一貫校『さつき学園』について」

小中一貫校でも、義務教育学校を設置した経緯と義務教育学校の特徴の説明を受けた。

小学校卒業が前期課程修了となり、卒業式でなく修了式であること。学年も1年生から9年生までであること。学校・家庭・地域で子どもを育むという理念等、特徴的であった。

義務教育学校の特徴である1年生から9年生までを、現状の6-3制でなく、緩やかな4-3-2制で学校運営をしており、フロアの配置等にも、その意図が反映されていた。

施設見学の中から、系統的・組織的に学べる環境、五感すべてにアプローチした施設、地域に根ざし、地域と協働した学校づくりを目指しているスペース等も見学した。

今後の活動計画

(1)　観光ボランティア、学校給食における地産地消の両方から感じたことは、住んでいる住民から愛される行政を目指しているという点で、決してポピュリズムに走っているわけでも、過剰なサービス合戦を行っているわけでもないというごく当たり前のことを当たり前に行っているだけであった。ただ、観光ボランティアの「人様のお役に立ちたい」「自ら住む地域のいいところを皆さんにお見せしたい」という気持ちをしっかりと認めているところが印象的であった。

人には、ただ褒められよりも、自身の行動から影響される効果を認めてもらいたい「承認欲求」があるので、本市における各市民活動団体にも同様のアプローチができるような活躍の場をつくっていただくなり、用意するなりの手立てが必要であると考えた。

アンテナショップでは、名産品でエッジの利いたものが少ない本市にとって、連携・提携都市の名産品で品ぞろえ感を出すという発想は今までなく、さまざまな切り口で取り組めるものであった。

(2)さまざまな学校の形態があるのは、世界的にはスタンダードなことであり、義務教育学校も教育のグローバル化という観点からは、本市にあってもいいものだと感じた。

さらに大事なことは運営者の力量次第なところも十分に感じたので、現状では、このシステムを本市に持ち込む等を議論する前に、本市教育委員会を中心とする教育に携わる運営側のレベルアップの算段が必要であると考えた。そもそもレベルアップが必要なのかという基本的な部分も含め調査し、本市教育現場における運営レベルの現在地確認が必要であると考える。

別紙　行程表

| 日 | 時間 | 場所 | 内容 | 金額 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 木 | 8:54 | 尾張旭駅 | 集合8:45 | | | | |
| | | 名鉄瀬戸線 | | 300 | × | 9 | 2700 |
| | 9:08 | 大曽根 | | | | | |
| | 9:19 | JR中央本線 | | 3670 | × | 9 | 33030 |
| | 9:32 | 名古屋 | | | | | |
| | 9:43 | 新幹線　のぞみ207号 | 新大阪行き　17番線発→23番線着 | 指3010 | × | 9 | 27090 |
| | 10:33 | 新大阪 | | | | | |
| | 10:44 | JR京都線 | 須磨行　15番線発→6番線着 | | | | |
| | 10:48 | 大阪 | | | | | |
| | 10:58 | JR大和路快速 | 加茂行　1番線発→1番線着 | | | | |
| | 11:11 | 新今宮 | | | | | |
| | 11:25 | 南海線空港急行 | 関西空港行　3番線発 | 590 | × | 9 | 5310 |
| | 11:57 | 泉佐野 | 昼食 | | | | |
| | 13:03 | 泉佐野市コミュニティバス | | 無料 | | | |
| | 13:10 | 13:30～15:30行政視察<br>泉佐野市役所 | 市長・議長表敬訪問<br>①観光ボランティアについて<br>②地産地消活動について | 費用負担<br>1000 | × | 9 | 9000 |
| | 16:03 | 南海バス | | 170 | × | 9 | 1530 |
| | 16:08 | 泉佐野 | 駅前ショップ視察 | | | | |
| | 17:05 | 南海線空港急行 | 難波行 | 590 | × | 9 | 5310 |
| | 17:41 | 新今宮 | | | | | |
| | 17:51 | JR大阪環状線内回り | 天王寺・鶴橋方面　1番線発 | 180 | × | 9 | 1620 |
| | 18:08 | 京橋 | ホテル京阪京橋グランデ | 11556 | × | 9 | 104004 |
| 19 金 | 9:32 | 京阪本線 | | 210 | × | 9 | 1890 |
| | 9:42 | 土居 | | | | | |
| | | 徒歩3分程度 | | | | | |
| | 9:45 | 10:00～11:30行政視察<br>守口市立さつき学園 | 小中一貫校について | | | | |
| | | 徒歩3分程度 | | | | | |
| | | 土居 | | | | | |
| | 11:50 | 京阪本線 | | 210 | × | 9 | 1890 |
| | 12:00 | 京橋 | 昼食 | | | | |
| | 13:20 | JR大阪環状線内回り | 大阪・西九条方面 | | | | |
| | 13:26 | 大阪 | | | | | |
| | 13:32 | JR京都線 | 高槻行　7番線発→14番線着 | 3670 | × | 9 | 33030 |
| | 13:35 | 新大阪 | | | | | |
| | 13:43 | 新幹線ひかり470号 | 東京行　25番線発→15番線着 | 指<br>3000 | × | 9 | 27000 |
| | 14:34 | 名古屋 | | | | | |
| | 14:46 | JR中央本線 | | | | | |
| | 14:58 | 大曽根 | | | | | |
| | 15:08 | 名鉄瀬戸線 | | 300 | × | 9 | 2700 |
| | 15:26 | 尾張旭 | | | | | |
| | | | | 28456 | ←1人当たり 9人合計→ | | 256104 |

# 領収書等貼付用紙

（お客様片）

№A 051534

## 領　収　書

フロンティア旭　様

金額　¥104,004

ただし　1/8～19視察、ホート様@11556×9名様、宿泊費として

| 種別 | |
|---|---|
| ✓ | 現金 |
| | 振込 |
| | カード |
| | |

上記の金額正に領収しました

平成30年1月15日

収入印紙

名鉄観光[redacted]株式会社

名古屋市熱[redacted]丁目6番34号
名鉄神宮前駅西ビル8階
〒454-0815 名古屋市中川区中京南通り2の7
発行部署　名古屋支店
TEL(052)384-8031

担当者印

社印・担当者印のないもの、及び、複写記入でないものは無効とします

ホテル京阪京橋グランデ　宿泊

金額　¥104,004-円

日付　平成30年1月15日

≪注意事項≫
①領収書等は、見やすく、かつわかりやすくするため日付順とし、重ならないよう貼付してください。
②両面印刷されているものは、裏面も確認できるように上部又は左端のみのりづけしてください。
③A4用紙以上のものは、そのまま貼ってください。

# 領収書等貼付用紙

様式第2号

納付
返納 通知書兼領収証書

| | |
|---|---|
| 市町村コード 272132 議会 | 議会事務局 |
| （払込人）<br>フロンティア旭 様 | |
| 金 額 | 9,000 円 |
| （細節・摘要）<br>雑入視察受入費用（議会事務局）<br>視察資料代（@1,000×９名分） | |
| 会計 010 一般会計 | 年度ー納付書番号 |
| 区分 0 現年 | 29 ー 0025438 |
| 款 19 諸収入 | |
| 項 05 雑入 | |
| 目 03 雑入 | |
| 節 02 雑入 | |

上記の金額を30年1月18日 までに本市指定金融機関等に納付して下さい。

平成30年1月18日

泉佐野市長 [redacted]

領収日付印

[redacted]

上記の金額
領収しました。

泉佐野市会計管理者

金額 ¥9,000- 円

日付 平成30 年 1 月 18 日

≪注意事項≫
①領収書等は、見やすく、かつわかりやすくするため日付順とし、重ならないよう貼付してください。
②両面印刷されているものは、裏面も確認できるように上部又は左端のみのりづけしてください。
③A４用紙以上のものは、そのまま貼ってください。

第4号様式(その1)

# 政務活動費実績報告書

## 研究研修費・調査旅費

実績報告書 No. 6

| | |
|---|---|
| 項 目 | (研究研修費)・調査旅費 (該当する項目を○で囲む) |
| 期 間 | H30 年 3 月 19 日 から 3月 19日まで |
| 研究研修名・場所等 | 地方分権改革シンポジウム ～地方の提案で国の制度が変わる～ |
| | |
| | 東京都中央区銀座2－15－6 銀座ブロッサム(中央会館) |
| 参加者 | 4人<br>(氏名等) 武田なおき、さかえ章演、成瀬のりやす、まつだまさる |

研究研修・調査の項目 内閣府 地方分権改革推進室主催

プログラム 主催者あいさつ

基調講演 増田寛也「地方分権のめざす未来」

高橋 滋「地方の声で国の制度が変わる提案募集方式」

パネルディスカッション 「提案募集方式による地方分権改革の成果と展開」

コーディネーター 人羅 格 (毎日新聞社論説副委員長)

パネリスト 太田稔彦(豊田市長) 大橋洋一(学習院大学教授)

田中里沙(事業構想大学院大学学長) 野村文吾(十勝バス株式会社代表取締役社長)

中橋恵美子(NPO法人わははネット理事長兼学習院大学大学院教授)

| | 摘 要 | 金 額 | 備 考 |
|---|---|---|---|
| 経費内訳 | 会場使用料 | 円 | |
| | 交通費(公共交通機関) | 3,720 円 | 尾張旭駅～大曽根駅300円×2 有楽町駅～新富駅165円×2×4人分(ICカード利用) |
| | 交通費(公共交通機関) | 82,880 円 | 10,360円×2×4人分(自由席利用) |
| | 宿 泊 費 | 円 | |
| | | 円 | |
| | | 円 | |
| | | 円 | |
| | 会費(出席者負担金) | 円 | |
| | | 円 | |
| | 計 | 86,600 円 | |

《内容及び今後の活用計画は裏面記載》

受付 30.3.28 第447号

第4号様式(その1)

| | |
|---|---|
| 内　　容 | 別紙参照 |
| 今後の活用計画 | 別紙参照 |

地方分権改革シンポジウム　―地方の提案で国の制度が変わる―
成果
○基調公演「地方分権のめざす未来」　東京大学公共政策大学院客員教授　増田寛也氏
地方分権改革有識者会議・提案募集検討専門部会長・法政大学法学部教授　高橋　滋氏
「地方分権改革」の考え方として、国が定める全国一律の公共サービスに、地方や住民が合わせるのではなく、多様な地域社会に暮らす住民実態に合わせた公共サービスを提供する必要があると提示された。
また、「地方分権改革」の意味として、住民に身近な行政、住民に近い地方自治体が、自主的かつ総合的に担い、地域の諸課題に取り組むことができるようにする改革であるとされた。
平成５年に衆参両院で「地方分権の推進に関する決議」がされて以来、第１次分権改革、第２次分権改革を経て現在に至り、新たな課題として直面している「人口減少・少子高齢化」「社会保障制度の持続可能性」「格差・貧困、社会の分断」等の諸問題に取り組んでいくためにも、より一層の地方分権改革が必要である、と結ばれた。

○パネルディスカッション
コーディネーター　毎日新聞社論説副委員長　人羅　格氏
パネラー　豊田市長　太田稔彦氏
（地方自治体の職員力・組織力強化による更なる地方分権改革）
パネラー　学習院大学法科大学院教授　大橋洋一氏
（提案募集方式による地方分権改革の成果と展開）
パネラー　事業構想大学院大学学長・宣伝会議取締役　田中里沙氏
（多様な主体の参画による地方創生へのアプローチ）
パネラー　ＮＰＯ法人わははネット理事長　中橋恵美子氏
（地方で、子育てを「まるごと」支援していくために）
パネラー　十勝バス株式会社代表取締役社長　野村文吾氏
（十勝バスの 10 年ぶりの利用者増加の取り組みより）
まずは、大橋洋一氏の提案について紹介する。
平成 29 年度は市民生活向上につながる多様な提案がされ、「提案募集をみれば、現場の行政課題の今がみえてくる」と報告された。
提案の高い実現率（平成 29 年度　89.9%）
提案の趣旨を踏まえて対応　157 件
現行規定で対応可能　29 件　小計 186 件
実現できなかったもの　21 件　計 207 件
実現率　186÷207＝89.9%
現状を取り巻く諸課題への対応「子ども子育てと地域交通を例にして」
「地域公共交通会議等の運営円滑化」「タクシーによる貨客混載」「自家用有償旅客運送関係」「バス停留所関係」「実証運行実験関係」において、実情に応じた地域交通の確保が可能

となった。
また、「子ども子育て」に関しては、国の基準行政を絶対視することなく、自治体運営の柔軟性確保をし、サービスを享受できない市民の大量発生を抑えることができるようにすることが肝要である、と結ばれた。
また、同様にＮＰＯ法人わははネット理事長中橋恵美子氏も、子育て支援メニューの一つとして「子育てタクシー」を発案され、現在（37都道府県）で2000名近いドライバーを育成している実例をあげられた。
要するに、これまで「行政の縦割り」や「前例にない」などにより、実現できなかったことを実現できる可能性が出てきて、地方に提案による成功体験が積み上がっていくのである。

成果の活用計画
○基調公演○パネルディスカッションのどれにも共通したキーワードがあったように思える。地方分権改革は「発想の転換」が必要であり「住民のニーズにいかに応えるか」ができるかどうかにかかっていると言っても過言ではない。要するに「法律があるからできない」とか「規制があるから無理」という発想からの脱却であり「尾張旭はどうすると市民ニーズに応えられるのか」という発想への転換が必要だということである。
具体例については、具体的に検討して次年度以降提案していく。

# 行程表

3月19日 (月)

尾張旭(名鉄) ― 大曽根(JR) ― 名古屋(のぞみ116号) ― 東 京 ―(JR)有楽町

8:54　9:08　9:19　9:32　9:42　11:23　11:36　11:38

有楽町(東京メトロ) ― 新富町　(受付後昼食)

11:50　11:53

(研修会場)銀座ブロッサム(中央会館)

13:30 ～ 16:30

新富町(東京メトロ) ― 有楽町(東京メトロ)　有楽町(JR) ― 東京

17:11　17:14　17:24　17:26

東 京(のぞみ247号) ― 名古屋 ― 大曽根(JR)

17:40　19:21　19:34　19:46

大曽根(名鉄) ― 尾張旭

20:01　20:16